

音楽科学習指導案

東広島市立西条中学校

教諭 棗 伊津子

- 1 日時・場所 平成23年12月7日(水)第3校時(10時35分～11時25分)
第1音楽室
- 2 対象 第1学年1組 38名(男子22名 女子16名)
- 3 題材名 「四季」より「春」や「冬」の音楽を形づくっている要素や構造と曲想との関わりを感じ取り、音楽のよさを味わって聴こう

4 題材設定の理由

(1) 題材観

この題材は、「和声とインヴェンションの試み」第1集「四季」から「春」及び「冬」(A. ヴィヴァルディ作曲)を教材としたものである。学習指導要領の内容は、鑑賞B(1)の事項のア、共通事項のうち音色、旋律、リズム、形式、テクスチュアなどを取り扱う。

「春」は、急-緩-急の3楽章構成による独奏協奏曲である。A. ヴィヴァルディの独奏協奏曲の最も大きな特徴は、独奏と合奏が交互に出てくるリトルネッロ形式が出てくること、ソネットの内容と自らが感じ取った印象を重ねることで、情景を想像しやすいということである。今回の学習では、「春」や「冬」の音色、旋律、リズム、形式など音楽を構成している要素を知覚し、感受を深めながら、ソネットとの関わり合いなどを意識して楽曲の部分や全体を聴かせ、その曲の特徴を、要素を根拠に、解釈したり価値を考えたり言葉で説明するなどして、よさや美しさを味わう力を身に付けさせたい。

(2) 生徒観

本学級の生徒は、歌を歌うことが好きな生徒が多く、合唱大会の取組を通して、歌詞の意味を考えながら歌ったり、他のパートの音を聴いて音の重なり注意到意しながら歌うことができるようになってきた。また、パートリーダーを中心に意見を出し合いながらパート練習をするなど、積極的に授業に取り組むことができる。

鑑賞の授業では「魔王」を鑑賞し、強弱の変化、歌い方、音高の変化からひとりが4人の登場人物を歌い分けるおもしろさを感じ取ることができた。しかし、音楽のよさや美しさを生み出している要素の働きを聴き取り、自分がイメージしたことを伝え合うことには苦手意識がある。

表 年度初めと合唱大会後のアンケート結果(第1学年)(%は肯定的な回答)

アンケートの項目	年度初め	後期初め
音楽を形づくっている要素を知っている	82%	70%
歌うことが好きである	70%	75%
音楽の授業の中で歌う時、その曲について歌詞の内容や音楽の要素の関わり合いを言葉で表現することができる。	59%	60%
音楽の授業で歌う時、歌詞の内容、曲の感じを生かした表現を工夫し、自分の思いをもって歌っている	67%	76%

鑑賞することが好きである	84%	76%
音楽の授業で鑑賞する時、曲の感じとその変化などを感じながら聴いている	81%	81%
音楽の授業で鑑賞する時、音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じながら聴いている	63%	66%
音楽の授業で鑑賞する時、想像したことや感じ取ったことを発表したり文章にまとめたりすることができる	58%	57%

なお、本校では、昨年度各教科における言語活動の充実を研究主題とし、音楽科では『要素を知覚し、曲の特質や雰囲気を感じ取る活動を通して』をテーマとして取組を進めてきた。毎年、年度初めにアンケートを実施しているが、表は年度初めと後期の合唱大会後に行ったアンケートの比較である。この表からも分かるように、生徒は音楽の要素を聴き取り、言葉で表現することに苦手意識をもっている。

また、日頃の学習の中で表現の工夫について考える時や、楽曲の特徴を捉える時も強弱や速度など表現に関わる要素を聴き取る生徒は多くなってきたが、形式やテクスチュアなど、曲の構成に関わる要素を感じ取るまでに至っていない。

(3) 指導観

ワークシートを工夫し、「春」において音楽的な感受（知覚したことと感受したこと）を確実に学習できるようにする。音楽的な感受を手がかりとしながら、「春」について自分にとっての感じ方や解釈などを紹介文（言葉）で表す学習を、クラス全体で確認しながら進める。そして、「春」で学んだ聴き方を生かしながら、「四季」の中でも調性が異なり「春」とは全く雰囲気の異なる「冬」を鑑賞し、比較することで、楽曲のよさや美しさを味わう力を確かなものにする可以考虑。

5 題材の目標

- 「四季」より「春」や「冬」の音楽を形づくっている要素を知覚し、要素や構造と曲想の関わりを感じ取り、紹介文を書くなどして、楽曲のよさや美しさを味わって聴くことができる。

6 題材の評価規準

ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 鑑賞の能力
① 「春」の音楽を形づくっている音色、旋律、テクスチュア、形式や構造と曲想のかかわりに関心を持ち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。	① 「春」の音楽を形づくっている音色、旋律、テクスチュア、形式を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じている。 ② 「四季」より「春」や「冬」の音楽を形づくっている要素や構造と曲想との関わりを感じ取って、解釈したり価値を考えたりし、言葉で説明するなどして音楽のよさや美しさを味わって聴いている。

7 指導と評価の計画（全3時間）

次	時	学習内容	評 価			
			関	鑑	評価規準	評価方法
一	1	<p>○「四季」より「春」の第1楽章を鑑賞し、感じ取ったことを出し合う。</p> <p>○感じ取ったことをもとに、その曲の部分に合うソネットを選ぶ。</p> <p>○繰り返し出てくる旋律を聴き取り、第1楽章の特徴をまとめる。</p> <p>○演奏している楽器の特徴をまとめる。</p>	◎		<p>・「四季」より「春」の音楽を形づくっている音色、旋律、テクスチャ、形式や構造と曲想のかかわりに関心をもち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。</p>	<p>発言</p> <p>ワークシート</p>
	2	<p>○「四季」より「春」の第2楽章、第3楽章を聴き、第1楽章と比較しながらそれぞれの音楽の特徴をまとめる。</p> <p>○「春」の紹介文を書く。</p>		◎	<p>・「四季」より「春」の音楽を形づくっている要素や構造と曲想との関わりを感じ取って、解釈したり価値を考えたりし、言葉で説明するなどして音楽のよさや美しさを味わって聴いている。</p>	<p>発言</p> <p>ワークシート</p>
二	3	<p>○「四季」より「冬」の第1楽章を聴き、「春」と比較しながら、どの季節を表現した曲か考える。</p> <p>○「春」と比較しながら「冬」の第1楽章の紹介文を書く。【本時】</p>		◎	<p>・「四季」より「冬」の音楽を形づくっている要素や構造と曲想との関わりを感じ取って、解釈したり価値を考えたりし、言葉で説明するなどして音楽のよさや美しさを味わって聴いている。</p>	<p>ワークシート</p> <p>発言</p>

8 本時の展開

本時の目標：「四季」より「冬」の音楽を形づくっている要素を知覚し、要素や構造と曲想の関わりを感じ取りながら紹介文を書き、楽曲のよさや美しさを味わって聴く。		
学習活動	指導上の留意点	評価規準（評価方法）
1. 曲名を知らせず、「冬」の第1楽章を聴き、感じたことを発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・説明なしで聴かせ、曲の特徴や雰囲気を感じ取らせる。 ・「春」と比較しながら聴かせる。 	
2. 本時のめあてを確認する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">音色・旋律・リズム・テクスチャ・形式に着目して、「冬」を味わって聴こう</div>	
3. 第1楽章を聴き、特徴をワークシートに沿ってメモし、グループで交流する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ソネットの内容を手掛かりとしながら、ワークシートを整理させる。 ・知覚したことと感受したことを分けてメモさせる。 ・曲の特徴を整理することが困難な生徒には、クラスの意見を聞くことで整理させる。 ・必要に応じて、楽曲を部分的に聞かせる。 	
4. ワークシートに曲の紹介文を書く。	<ul style="list-style-type: none"> ・音色，旋律，リズム，テクスチャ，形式のうち，3つ以上の要素と関わらせて書くようにさせる。 ・自分のおすすめのポイントを入れさせる。 ・書きにくい生徒については「春」の紹介文を書いた流れを参考にさせる 	<ul style="list-style-type: none"> ・「四季」より「冬」の音楽を形づくっている要素や構造と曲想との関わりを感じ取って、解釈したり価値を考えたりし、言葉で説明するなどして音楽のよさや美しさを味わって聴いている。 (ワークシート，発言)
5. 何人かの特徴的な紹介文を聞き、意見交換する。	<ul style="list-style-type: none"> ・要素の働きを的確に捉えた紹介文を発表させ、要点を板書する。 	
6. 第1楽章を聴き、学習の振り返りをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて紹介文に加筆させる。 	

言語活動の充実